

令和元年度 モニタリング結果報告書

活動組織名 ○○の森保全の会

1 活動の目標

タイプ名：地域環境保全タイプ（里山林保全）	具体的な数値目標を記載
目標：人工林をきれいにする	
モニタリング調査方法：木の混み具合調査（相対幹距比 2.0 ポイントアップ）	

2 活動実施前の標準地の状況（令和元年度）

写真

標準地の状況を記載	100 m ² のプロット内に平均樹高 15m のスギが 19 本成立（相対幹距比 15.3）
-----------	--

整備前のプロット内の状況を具体的に記載

3 活動 1 年目の標準地の状況（令和元年度）

写真

標準地の状況を記載	100 m ² のプロット内の木を 1 本伐採した 19 本→18 本（相対幹距比 15.3→15.7）
目標達成度	$(15.7 - 15.3) / 2.0 = 20\%$
次年度に向けた改善策	このペースでは 3 年後に 2 ポイントアップの目標達成は難しいので次年度は活動日数を増やして対応

1 年目整備後のプロット内の状況を具体的に記載

上記目標数値に対する達成度を%で記載

達成度がこのままでは 100% に達しない場合、次年度以降の対応を記載

4 活動 2 年目の標準地の状況（令和 2 年度）

写真

標準地の状況を記載	100 m ² のプロット内の木を 2 本伐採した。18 本→16 本（相対幹距比 15.7→16.7）
目標達成度	$(16.7 - 15.3) / 2.0 = 70\%$
次年度に向けた改善策	

2 年目整備後のプロット内の状況を具体的に記載

上記目標数値に対する達成度を%で記載

このままのペースで目標が達成できるのであれば特に記載の必要なし

5 活動3年目の標準地の状況（令和3年度）

写真

標準地の状況を記載	100 m ² のプロット内の木を2本伐採した。16本→14本 (相対幹距比 16.7→17.8)
目標達成度	$(17.8 - 15.3) / 2 = 125\%$

3年目整備後のプロット内の状況を具体的に記載

100%に達しない場合は事業終了後も100%鉄製するまで活動を続けていただき、達成した時点でこの報告書を提出いただく必要があります

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。